

令和7年第1回北本市議会定例会請願文書表

受 理 番 号	議請第1号
受 理 年 月 日	令和7年2月12日
件 名	「選択的夫婦別姓制度をただちに導入するための国会審議を求める意見書」の国会提出を求める請願
請願者の住所 及 び 氏 名	新日本婦人の会北本支部 支部長 前 田 祥 子
請 願 の 趣 旨	別記のとおり
紹介議員氏名	工 藤 日出夫、湯 沢 美 恵、中 村 洋 子

【請願趣旨】

日本では、婚姻における夫婦別姓が認められないために、望まない改姓、事実婚、通称使用などによる不利益や不都合を強いられる人が多く存在しています。夫婦同姓を法律で定めているのは日本だけです。婚姻の際、96%が夫の姓になっており、女性に多大な負担となっています。

通称使用では、「旧姓併記」「旧姓使用」での法的根拠がないために、本人であることを疑われたり、さまざまな事務手続きの煩雑さがあります。働く女性にとっては改姓によって「キャリアが中断される」との声も切実で、通称使用の拡大では根本的解決になりません。

女性差別撤廃委員会は夫婦同姓を義務付ける民法750条は「差別的規定」にあたるとして、2003年以降繰り返しその改正を勧告してきました。2024年10月には、「750条を改正する措置が何もとられていない」ときびしい表現で勧告し、再び「2年以内に実施状況の報告」を求めています。

法務大臣の諮問機関である法制審議会は1996年、選択的夫婦別姓導入などを含む民法改正要綱を答申しました。最高裁判所は2015年と2021年に夫婦同姓の強制は違憲ではないと判断しつつも複数の反対意見が付され、制度のあり方は国民の判断、国会にゆだねるべきとしています。

選択的夫婦別姓制度は、同姓か別姓かを「選択」できるようにするもので、誰も強制されることのないしくみです。

最近の世論調査では約7割が選択的夫婦別姓制度に賛成し、若年層ほど賛成が多いです。2024年6月には、日本経済団体連合会が導入を求める提言を発表しました。同制度の導入を求める地方議会の意見書も次々採択されています。

2024年10月の衆議院選挙を経て、選択的夫婦別姓制度の導入に賛成する政党が国会で多数となり、同制度をただちに導入することは、国会が日本国民に対して果たすべき責任です。

よって、「選択的夫婦別姓制度をただちに導入するための国会審議を求める意見書」を国会へ提出していただくようお願いいたします。

【請願事項】

「選択的夫婦別姓制度をただちに導入するための国会審議を求める意見書」を国会へ提出すること。